

LUI「公募研究 B」成果報告書

1. 申請者名・所属先：

鈴木 舞・附属図書館

2. 国際研究集会の名称及び概要：

秦の淵源—秦文化研究の最前線—

3. 開催場所：

オンライン開催 (ZOOM)

4. 開催日時：

2021年6月20日(日) 10:00~17:00

5. 国際研究集会開催の趣旨・目的 (800字程度)

秦(前221年~前206年)は、中国史上初めての統一国家として知られる。これまで学術界では、統一秦帝国、またそれを遡る春秋戦国時代(前770年~前221年)の秦については、文献史学・考古学ともに数多くの研究成果が挙げられてきた。近年ではさらに、中国各地での発掘調査の進展を受けて、秦文化の源流である「早期秦文化」、すなわち西周時代にまで遡ることが明らかになってきた秦人の動態が注目されている。

このような現況に鑑み、本シンポジウムでは、日中両国の考古学者らがそれぞれ異なる資料・手法から、早期秦文化・秦文化に関する研究成果を公開した。中国からは、長年秦漢遺跡の調査・研究に携わってこられた焦南峰氏・梁雲氏に、秦漢帝王陵の変遷、各種考古資料から見た早期秦文化の形成についてご発表頂いた。日本からは上記両氏と共同研究を進めてきた飯島武次氏に早期秦文化の土器についてご報告頂いた。また、角道亮介氏は秦都雍城・咸陽城から見た国家形成期における都城プランのあり方、大日方一郎氏は秦墓にみられる倣銅陶礼器副葬、鈴木は秦における青銅器生産の開始、曹龍氏は秦墓に副葬された牛車俑、菊地大樹氏は秦国の馬匹生産体制について、それぞれ報告を行った。シンポジウムの最後には、平勢隆郎氏に、上記の各報告内容を文献資料に見られる秦の様相の中に位置づけ、総括して頂いた。また質疑応答では、中国史に留まらない、東アジア史・ユーラシア史的視点からの議論への展開も見られた。

ここ1年以上続くコロナ禍の中、オンライン開催の形を取らざるを得なかったが、結果として、日中両国を始めとして主に東アジア各国・各地域から、対面開催では得ることができないほど数多くの参加があり、学術交流の貴重な機会となった。また考古学以外を専門とする方々の参加も多く、各界からの貴重なご意見を頂く機会になった。企画・運営に際して

は、登壇者・通訳者・翻訳者など含め、日中両国の各世代の研究者ら総勢 20 名以上が非常に「密」に携わり、両国の学术交流の深さを再認識する良い機会にもなった。

また概要集（日中 2 か国語版、ISBN 付き）を刊行し、国内外の関係者・関係機関に対して寄贈を行うことで、研究成果の公開促進を図った。

6. 国外招聘研究者を含む主な講演者・参加者（氏名・所属等）

国外講演者

- ・焦 南峰（中国・陝西省考古研究院）
- ・曹 龍（中国・陝西省考古研究院）
- ・梁 雲（中国・西北大学文化遺産学院）

国内講演者

- ・飯島武次（東洋文庫、駒澤大学）
- ・大日方一郎（國學院大学）
- ・角道亮介（駒澤大学）
- ・菊地大樹（総合研究大学院大学）
- ・鈴木 舞（東京大学）
- ・平勢隆郎（東京大学）
- ・田畑 潤（愛知県陶磁美術館） ※紙上発表

7. 参加人数

約 210 名